

介護者の会ネットワーク会議かわらばん

日時: 2015年9月30日(水) 14:00-17:00

会場: 吉祥寺永谷シティプラザ会議室

参加者: 12名

1. ケアフェス報告

- ・来場者数は728人(内、学生145人)これまでになく学生が多く参加した。
- ・セミナーは内容が濃く、ケアの本質に触れたものだった。一方向的なものでなくワークショップや語り合うものも多かった。その場で終わらず、しゃべり場などでその後も話しこむ姿が見られた。
- ・高齢介護の相談場所がなかった。今年は、介護者の会ネットワークとして、介護者の広場をつくらなかったが、その必要性をあらためて感じた。
- ・今回を踏まえ、介護者の会ネットワークとして、どうしていくかは、今後考えていけばよいと思う。

2. 公開講座報告「介護保険改正で地域福祉がどう変わる」報告

- ・この講座の趣旨について: 介護保険改正で各自治体が準備をはじめている。制度にたよらず、NPOや団体など、市民に要支援の人の受け皿になってほしいというのが国の方針。自治体がどんな役割をもち、市民はどう動いていけばよいのか、詳しい方に話をきいた。
- ・動きがわからないので参加したが、自分の地域では動きがない。市民が声をあげるところからやるしかないと感じた。
- ・今まで何を質問してよいかすらわからない状態だったが、少しずつわかってきた。総合支援事業計画について問い合わせにしてみたが、まだ係が決まっているくらいの状態のようだ。要支援は、これまでどおり受けてくれるようだが、地域の見守り、支えあいをどうしていくかまでは決まっていないようだ。
- ・行政が動いているのはわかっていたが、それがどういう意味なのか、話をきいてわかった。今後、介護者、ご本人が困らないように、地域でネットワークをつくっていく必要性を感じた。

3. 各会の活動報告

- ・会の開催も安定してきた。会員だけのクローズの集まりを始めた。介護以外の話もできることで、参加者の表情も違うと感じ、この集まりを大事にしていきたいと思う。
- ・地域のケア会議に呼ばれるようになった。現場の声をきこうという一歩前進だと思う。
- ・新しい参加者が増えたが、会の中で、重い話をされる方とのギャップもあって悩む。
- ・行政のやっている集まりで、広報が遅れて参加者がいなくなったりしてせっかくの機会にもったい

ないと感じた。また行政の対応に疑問を感じるがあった

- ←行政の広報は他の分野の情報掲載との兼ね合いでタイミングよくいかない場合もある
- ←行政に意見はきちんと言った方が良く、利用者は困りますと。窓口に言ってもだめな場合は、上に言うと良い。文句を言うだけでなく、「助かった」と伝えることも大事。
- ・新しい方が来られた時、長く参加されている方がわかっていて、控えめに話すなどの配慮が自然にされている。
- ・会に新しい人が来なくなってきた。日中には現役の人は来づらい。人が集まりたいと思う会にするために、新しい情報が得られたり“勉強になる”会にする、介護以外についても話しやすくする、などに力をいれている。
- ・集いにでてこられる人は少ないと感じる。集いでは、おもいのたけを話せる。また、参加された方が帰りに気の合った人同士で話せるといったことも良いことだと思う。
- ・介護の問題は、家庭問題、人間問題。会では、介護をきっかけに、色んな話ができればそれによいと思う。介護者の会でも、介護の話とわかる会があったり、なんでもありの会があったり、どこまでやるかはそれぞれでよいと思う。
- ・時間がかかったが、行政からも認識される会となってきた。
- ・遠距離介護の方が増えてきている。兄弟間の問題、お金の問題となっている。
- ・チラシを見てご本人が不安で連絡してくるケースがある。もう少し早い段階で、医者や行政等で安心できる情報を伝えたりなどできるようになると良いと思う。
- ・会に、レビーと診断された方が参加している。本人は、とても不安で、また認知症ではないといっている。会として何ができるか悩む。
- ・看取り終わった方で、喪失感があり、3年近く、ふさぎこんだままにいる方がいる。専門家ではないので、どこまで踏み込んだらよいかと思う。たまに声かけたりはしているが。介護者の会としてフォローなどやっているか？
 - ←そのまま参加している。亡くなった後の話などもきいている。
 - ←包括や、保健師につなげては。
 - ←グリーンケアの会はどうか。

次回:2015年1月29日